

2011年4月6日

中国電力株式会社
取締役社長 山下 隆 様

日本共産党島根県委員会
委員長 中林 隆

島根原発についての申し入れ

福島原発の重大事故は、大地震や大津波への備えを怠り、「日本では原発の重大事故は起きない」という「安全神話」にしがみつき、原発をやみくもに推進してきた政府や電力会社による人災にほかなりません。

福島原発の事故を受け、県民の不安は高まっています。それは、貴社が、昨年5月11日所もの点検漏れを起こしながら、公表までの1年もの間、情報を県民に一切公開せず、点検漏れのまま原発の運転を続けてきたからであります。

この間、貴社は、土用ダム（岡山県）の測定データ改ざん、下関発電所における地元自治体と交わした公害防止協定違反、西郷発電所のばい煙規制値超過による大気汚染防止法違反、原発内での相次ぐ火災の発生、不適切事案に対する行政処分、活断層の見落としなど、幾度となく県民を裏切り続けてきました。問題発覚の度に謝罪はするものの、安全対策や長年の構造的な隠ぺい体質が改善されていないではありませんか。

貴社の安全神話に浸ったおごり、目に余る異常体質に対し、県民からは「原発を運転する資格がない」「プルサーマルなどとんでもない」「中国電力は信用できない」などの厳しい批判の声が上がっています。

原発を推進する保安院でさえ、全国の商業原発の5段階評価で、島根原発は、全国で唯一最低評価の「1」と断じるほど安全・保守管理体制の不備を指摘したではありませんか。

福島原発の事故を受け、他の電力会社は、原発稼動に慎重な姿勢を示しています。

しかしながら、貴社は、3月28日に「島根原発2号機でのプルサーマル計画は、予定通り推進する」と表明しました。貴社のプルサーマル推進方針に対して、県民からは「中国電力は何を考えているのか」「事態の深刻さを全く理解していない」と怒りの声が巻き起こっています。

全国最多の不正・不祥事を続ける貴社に、プルサーマルを運転する資格はありません。徹底した安全総点検、活断層調査などの安全対策を真っ先に実施すべきであります。

以上、県民の安全と命を守る立場から、下記のことを申し入れます。

記

1. 国際基準に合致し、今回の震災の教訓を踏まえた新しい安全基準に基づいた原発の総点検を実施し、安全対策に全力で取り組むこと。3号機は中止すること。
2. 危険なプルサーマル計画は、直ちに撤回すること。
3. 貴社が実施した活断層調査は不十分であり、専門家の意見を真摯に聞き、再調査を行うこと。
4. 出雲市など半径30km圏内に位置する自治体との安全協定締結に応じること。
5. 「安全神話」を一掃し、原子力の危険性を県民に正直に語り、情報公開を徹底し、説明責任を果たすこと。